

平成 22 年 6 月 4 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007 ～ 2009

課題番号：19520557

研究課題名（和文） 「信長記」諸本の史料学的研究

研究課題名（英文） Research on "Shinchô-ki" from a View of the Source Science

研究代表者

金子 拓 （ KANEKO HIRAKU ）

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：10302655

研究成果の概要（和文）：本研究は、織田信長の家臣太田牛一が著述した『信長記』（別称「信長公記」「原本信長記」「安土記」など）自筆本・写本の史料学的検討を目的とした。国内各所蔵機関に伝来している『信長記』を調査し、その一覧表を作成するとともに、史料編纂所において未撮影の写真による撮影・紙焼写真購入を進め、それらをもとに内容を検討し書写伝来の系統を明らかにした。これらの成果は、研究代表者金子の単著『織田信長という歴史』、連携研究者堀新が編者となり、研究協力者桐野作人・矢部健太郎・和田裕弘が寄稿した『信長公記を読む』、研究協力者杉崎友美の論文「『信長記』の筆跡論」などとして公表した。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this research is examine from a view of the historical source science of original handwritten version and transcribe of ' Shinchô-ki '. We investigated ' Shinchô-ki ' introduced various place, and made its table. We took a picture of the historical materials of which the Historiographical Institute had not taken a picture yet, and bought the printing photograph. Next, we examined the content of ' Shinchô-ki ' based on collected materials, and clarified the connection of the copy. These study results were announced as a book that the research member had written.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本中世史・織豊期・織田信長・史料学・信長記

1. 研究開始当初の背景

織田信長に仕えた太田牛一が記した『信長記』には、牛一自身が別々の時期に認めた自

筆本が数種存在し、また各段階の自筆本を筆写した写本が複数存在する。しかしながらそれらに基づく総合的なテキスト研究、諸本系統の分類、成立の経緯、伝来の過程などの本

格的研究は十分なされていなかった。

2. 研究の目的

①諸本系統の分類、自筆本成立の経緯、書写伝来の過程などについて、自筆本・写本の所蔵者・所蔵機関におもむいて写真撮影し、代表者の所属する史料編纂所図書閲覧室を通してそれらの複製を閲覧に供する。

②原本調査を通して、それらの背後にある政治状況や著者・筆写者の歴史認識のあり方などを踏まえながら、その成立や書写伝来の経緯などを検討し、定本的な翻刻テキストの刊行の実現に向け、基礎作業と研究条件の整備をおこなう。

3. 研究の方法

国内各所蔵機関・個人が所有する原本・写本を調査、撮影し、テキスト検討および料紙・装訂などを分析することにより、自筆本の成立過程および書写伝来系統を明らかにする。

4. 研究成果

本研究による諸本調査により、現段階で原本が約八十にのぼることが明らかになった。これらをリスト化するとともに、諸本の系統分類および書写伝来の関係を推測し、これらを代表者の単著としてまとめた。

また『信長記』に限らず、著者太田牛一の他の著書の自筆本も調査範囲に含めることにより、一人の著者が書物を作成するときの料紙の使い方、書物の装訂方法などを明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

金子拓、「織田信長の東大寺正倉院開封と朝廷」、『国史学』、196号、25-62頁、2008年、査読有

矢部健太郎、「小早川家の「清華成」と豊臣政権」、『国史学』、196号、63-98頁、2008年、査読有

黒嶋敏、「織田信長と島津義久」、『日本歴史』、741号、15-30頁、2010年2月、査読有

〔学会発表〕(計 2 件)

金子拓、「太田牛一『信長記』成立試論」、軍記・語り物研究会、2008年8月、早稲田大学

金子拓、「さまざまな立場からの信長研究」、岐阜市信長プロジェクト報告会、2010年3月、岐阜市歴史博物館

〔図書〕(計 5 件)

金子拓 (共著)、『宴の中世 場・かわらけ・権力』、高志書院、2008年7月

堀新 (共著)、『信長公記を読む』、吉川弘文館、2009年2月

杉崎友美 (共著)、『文化財と古文書学 筆跡論』、勉誠出版、2009年3月

金子拓 (単著)、『織田信長という歴史 『信長記』の彼方へ』、勉誠出版、2009年9月

堀新 (単著)、『日本中世の歴史 7 天下統一から鎖国へ』、吉川弘文館、2010年1月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金子 拓 (KANEKO HIRAKU)

研究者番号：10302655

(2) 連携研究者

黒嶋 敏 (KUROSHIMA SATORU)

研究者番号：90323659

堀 新 (HORI SHIN)

研究者番号：80296524

(3) 研究協力者

岡田正人 (日本ペンクラブ会員)

桐野作人 (歴史科学協議会会員)

杉崎友美 (日本女子大学文学部助教)

矢部健太郎 (國學院大学文学部専任講師)

和田裕弘 (織田信長家臣団研究会会員)